

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成26年 9月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400142-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園内を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。また、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、作業や収穫を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県北の地、小高い里山の同一敷地内に法人事業所が多数位置し、一つの集落が出来あがり、行事や活動を通して交流を深め、馴染みの関係となっている。特に十字園内にあるふれあい館にて行われる「落合まちかど展覧会」は、ケアハウスや他のグループホームの利用者との良い地域交流の場となっている。職員は「地域とのふれあいを大切に・・・、一人ひとりの尊厳を大切に・・・、笑顔を忘れずに・・・」の実践に努め、入居者は地域とのふれあいを楽しみ、丁寧な個別の対応を受けて穏やかに生活を送っている。敷地内で栗を拾い、トマトやピーマン、スイカ等の野菜を作り、草取りをして畑を管理し、日々の生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十字会の方針・理念を玄関掲示板に掲示し、職員に意識づけをしている。	誰でも目に付く場所に十次会、独自の理念を掲示して意識付けを図り、共有して実践に繋がる様努めている。地域とのふれあいを楽しみ、笑顔で丁寧な対応を心掛け、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい館で開催されるまちかど展覧会に出品、見学に行き利用者同士の交流をしたり、近くの商店に買い物へ出かけたりしている。運営推進委員には地域の民生委員の方に参加していただいている。	敷地内にある「ふれあい館」で行われるまちかど展覧会に出品し、見学に行き、そこで出会う人達と交流を楽しんでいる。地域の銭太鼓や大正琴のボランティアが訪問してくれ、利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市内のグループホームで開催している連絡協議会に毎回参加したり、地域の研修等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	花見や、納涼祭など実際の行事にも一緒に参加していただいたり、取り組み状況を報告しながら、委員からの疑問や意見を聞いている。また外部評価の報告もしている。	運営推進会議を高齢者支援課、民生委員、家族等が参加し現況を報告し、市から情報提供、伝達を受けている。法人行事を兼ねて開催する等工夫して、活動状況を判断してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に毎回出席して頂き、運営報告を行い、助言を頂いている。	運営推進会議には市の職員が参加しており、実践内容の報告を行い、市からの伝達を受けている。真庭市内のグループホーム連絡会や研修に出席して連携を図っている。市主催の研修には快く応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でも声掛けチェックシートを活用し束縛のない声掛けを心掛けている。また身体拘束ゼロハンドブックを利用し正しい理解を深めている。	身体拘束ゼロのハンドブックにて職員は禁止となる行為を正しく理解し、実践に繋げている。誘導時の丁寧な声掛けや柔軟な対応にて入居者は平穩に落ち着いた生活を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内でも身体拘束0推進委員会の中で虐待について話し合い、事業所内でも虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度を学ぶ機会をもっている。正しい知識、理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書を提示して利用料等の説明を丁寧に行い疑問点を尋ね説明している。また、改定の際などは利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を聞く機会を設けている。また、意見箱を設置している。「十字会だより」で日常の活動や行事を報告している。	意見箱を設置し、運営推進会議時や面会時、「十字会だより」を配布して活動報告を行い、意見を聴く機会に繋げている。年間行事等の際、活動時の入居者の様子・反応により判断している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回、副主任連絡会では法人の運営に関する意見や提案を提出している。また、法人の各種PTや委員会に事業所職員がメンバーとなり参加している。	労働安全委員会にて職場環境についての改善について話し合っている。意見を言い易い環境を作り、現場で直接話し合っている。提案は副主任連絡会に提出されている。	若いスタッフの方が介護に意欲的で、向上心をもって働いているので、今後も話し合いの場や一緒に意見が言い合える環境作りを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則を設け、就職するときに説明をしている。また、労働安全委員会を開き職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に照らし研修を受ける機会を確保したり、法人内外の研修の情報を提供し、OJTを活用して研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会を4ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換、研修を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員、管理者は本人の思いや、不安に耳を傾けながら安心出来るような対応をしている。慣れない環境で本人の不安も大きいため、早い段階で一つ一つ解決出来る様な関わりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談時に家族が困っている事や不安なことや要望等をお聞きしている。又、疑問に思っていることなどは、その都度話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で家事を一緒に行いながら、その人の出来る部分を大切にしたり関わりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、家族に随時相談しながら対応を相談している。面会時や電話で様子を伝えたり、自由に外出や外泊をして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との墓参り、帰省、行きつけの美容院や外食など今までの生活が途切れない様、馴染みの場所や、人との関係を継続出来る様にしている。	ふれあい館で行われる「まちかど展覧会」に出掛け、同グループの利用者と交流し、馴染みの関係となっている。家族と外食、墓参りに行ける様支援している。馴染みのストアと一緒に買い物出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味活動やレクリエーションなど隣フロアの利用者同士との関わりや、孤立しない様な援助を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話しているときに、さりげなく一人一人の思いやこだわりを聞いている。「利用者情報シート」の記入をご家族にお願いし、その人らしく生活出来るようにしている。	「人生歴申告書」、ケアマネの情報、「利用者情報シート」や本人の話から勘案して、思いや意向の把握に努めている。コミュニケーションを深め、好みを知り、暮らし方の希望を捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅や他の施設のケアマネに情報を頂いたり、家族に「人生歴申告書」の記入を協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように、状態変化に注意し、随時アセスメントを行い、カンファレンス開催し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が穏やかに安心して暮らせるよう、6ヶ月毎にモニタリングを行い、本人や家族の要望が生かせるような介護計画を作成するようにしている。	6ヶ月毎にモニタリングを行い、サービスの進捗状況を話し合っている。個別のケア記録や介護員日誌の記述を通して状態の変化を知り、計画の変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や介護員日誌を毎日記録し統一した援助が出来るようにしている。細やかな事でも職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないと決め付けずに個々にあった支援ができるよう取り組めるよう利用者本位の支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問に来ていただいたり、踊りや銭太鼓等の慰問が来られた時には見学に行っている。また「まちかど展覧会」にも出品しふれあい館を訪れた方とのふれあいもできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は、家族の協力で受診されている。また、協力医と連携し緊急時には医師に相談し、指示を仰いでいる。	かかりつけ医の希望が家族からあれば、受診出来る様支援している。協力医の往診が個別にある。併設の特養の看護師等で異常の早期発見に努め、安心して生活が送れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。入院時には真庭共通シートで情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療的管理の必要な方は、ご家族に説明し納得いただいている。また重度化した場合の対応などや施設での生活が出来るだけ継続出来るようにしている。	契約時、又は重度化して医療管理が必要となれば、事業所での対応を家族に説明している。看取りはしていないが、可能な限りターミナル期間の対応が出来る様支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう救急法について職場内外の研修や施設内のOJTに参加しマニュアルに沿い実践に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実地し、自然災害時の訓練も行い地元の消防団の協力も得ている。事業所内でも一年間の防災計画に基いた防災研修をしている。	年2回、法人全体で避難・通報マニュアルを基に土砂災害時訓練・避難訓練を地元消防団と一緒に実施している。避難場所へのルートは確認できている。災害時の米・水・味噌汁などの備蓄をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時には特にプライバシー保護に配慮し、失禁があっても、本人が傷つかないような声掛けを行い、自尊心を傷つけないようにしている。	誘導時の声掛けに注意して、プライバシーの配慮に努めている。散歩や隣接するユニットのリビングに行く等、本人の思いやペースで過ごせる様支援し、その人らしい生活獲得に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活を本人のペースで過ごせるように支援している。趣味活動等本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	戸外への散歩や、外の一畳台に座って外を眺めたり本人のペースで生活出来るよう支援している。気軽に隣フロアと行き来できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服や以前から好きだった色の服や気に入ったものが着られるように衣類の整理を一緒にする。またお化粧が出来る様セッティングしたり月2回の施設内での散髪やご家族と行きつけの美容院に行かされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園庭に落ちた栗を拾い、皮むきを行い職員と一緒に食事の準備をしている。又、季節の野菜を裏の畑で作り、収穫し食事を楽しめる様支援している。	広い菜園ではスイカ・枝豆・トマト・ピーマン等の野菜を作り、旬の美味しい食材となっている。栗拾いをし、栗の皮むきを一緒にに行い、季節感が味わえる食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立を基に調理している。水分が取りにくい方にはレモン水や、お茶ゼリーをつくるなど水分量の確保が出来るよう工夫している。また栄養の取りにくい方には栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。入れ歯の方にはポリデント使用し清潔を保っている。義歯の不具合など早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。排泄の自立が出来るだけ出来るようにしている。汚物処理も出来る方にはして頂いている。	「便所」と大きく表示して排泄の自立支援をしている。排泄はトイレでを基本とし、座位が可能であれば二人介助にてトイレ誘導をしている。散歩を取り入れ、白湯を早朝に飲むなど、体調の管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝に白湯を飲んで頂いたり、フロア内を散歩したり、個々に合った対応をし便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節には柚子湯等を行い、季節を感じて頂いている。入浴拒否の方には職員間で対応を考えて喜んで入浴出来る様にしている。	週3回の入浴となっている。本人の意向を確認の上、誘導をしている。入口には「風呂」と表示して入浴への期待を高める支援をしている。冬至には柚子湯をして季節が楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を把握し、散歩や家事全般を職員と共に夜よく休めるようにしている。眠れないときはフロアで話をきいたり安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で専用のケースを個人別に分け確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の本人の思いを家族に相談し、墓参りやドライブ、外食や帰省等を協力して頂き、外出支援をしている。	広い敷地内を外気浴と気分転換を兼ね、散歩に出掛けている。玄関先の一畳台に腰を下ろし、日向ぼっこを兼ね休憩出来る様工夫している。家族と墓参りや外食に出掛けられる様支援している。	入居者と一緒に外出する機会はほとんどない様ですが、広い敷地を外気浴を兼ねて外出するのは気分転換となるので、時間を取って少人数ずつでも外出の機会を捉えられることに期待を寄せる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じたハガキをご家族に送ったり、敷地内にあるポストに手紙と一緒に入れに行ったりしている。希望があればご家族に電話する機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が快適に過ごせるよう環境面での配慮をしている。湿度、温度、陽射し等にも気を付けており、季節の移り変わりも窓の外から感じる事が出来る。	気の合う仲間と一緒に過ごせる様、配席の配慮をしている。季節の花を玄関やリビングに飾り、彩を添えている。寛げる場所に炬燵を配し、家庭的な雰囲気を醸し出している。お互いのユニット間で将棋に興じ、満足のいく生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣りフロアで唄を歌ったり、囲碁をしたり自室で過ごされるなど本人のペースを尊重するような関わりを持っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、置物を飾っている。本人の意向を聞きながら安心して過ごせるように支援している。	入口に表札を設け、他室と区別している。テレビ、仏壇、家具、写真を置き、居室を馴染みの自宅に近づけている。各室の窓からは季節の移り変わる景色が観られ、落ち着いた生活が得られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のそれぞれの場所には分かり易く表示をし、移動が安全に自立できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成26年 9月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400142-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園内を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。また、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、作業や収穫を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十字会の方針・理念を玄関掲示板に掲示し、職員に意識づけをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい館で開催されるまちかど展覧会に出品、見学に行き利用者同士の交流をしたり、近くの商店に買い物へ出かけたりしている。運営推進委員には地域の民生委員の方に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市内のグループホームで開催している連絡協議会に毎回参加したり、地域の研修等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	花見や、納涼祭など実際の行事にも一緒に参加していただいたり、取り組み状況を報告しながら、委員からの疑問や意見を聞いている。また外部評価の報告もしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に毎回出席して頂き、運営報告を行い、助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でも声掛けチェックシートを活用し束縛のない声掛けを心掛けている。また身体拘束ゼロハンドブックを利用し正しい理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内でも身体拘束0推進委員会の中で虐待について話し合い、事業所内でも虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度を学ぶ機会をもっている。正しい知識、理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書を提示して利用料等の説明を丁寧に行い疑問点を尋ね説明している。また、改定の際などは利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を聞く機会を設けている。また、意見箱を設置している。「十字会だより」で日常の活動や行事を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回、副主任連絡会では法人の運営に関する意見や提案を提出している。また、法人の各種PTや委員会に事業所職員がメンバーとなり参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則を設け、就職するときに説明をしている。また、労働安全委員会を開き職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に照らし研修を受ける機会を確保したり、法人内外の研修の情報を提供し、OJTを活用して研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会を4ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換、研修を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員、管理者は本人の思いや、不安に耳を傾けながら安心出来るような対応をしている。慣れない環境で本人の不安も大きいため、早い段階で一つ一つ解決出来る様な関わりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談時に家族が困っている事や不安なことや要望等をお聞きしている。又、疑問に思っていることなどは、その都度話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で家事を一緒に行いながら、その人の出来る部分を大切にしたり関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、家族に随時相談しながら対応を相談している。面会時や電話で様子を伝えたり、自由に外出や外泊をして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との墓参り、帰省、行きつけの美容院や外食など今までの生活が途切れない様、馴染みの場所や、人との関係を継続出来る様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味活動やレクリエーションなど隣フロアの利用者同士との関わりや、孤立しない様な援助を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話しているときに、さりげなく一人一人の思いやこだわりを聞いている。「利用者情報シート」の記入をご家族にお願いし、その人らしく生活出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅や他の施設のケアマネに情報を頂いたり、家族に「人生歴申告書」の記入を協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように、状態変化に注意し、随時アセスメントを行い、カンファレンス開催し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が穏やかに安心して暮らせるよう、6カ月毎にモニタリングを行い、本人や家族の要望が生かせるような介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や介護員日誌を毎日記録し統一した援助が出来るようにしている。細やかな事でも職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないと決め付けずに個々にあった支援ができるよう取り組めるよう利用者本位の支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問に来ていただいたり、踊りや銭太鼓等の慰問が来られた時には見学に行っている。また「まちかど展覧会」にも出品しふれあい館を訪れた方とのふれあいもできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は、家族の協力で受診されている。また、協力医と連携し緊急時には医師に相談し、指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。入院時には真庭共通シートで情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療的管理の必要な方は、ご家族に説明し納得いただいている。また重度化した場合の対応などや施設での生活が出来るだけ継続出来るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう救急法について職場内外の研修や施設内のOJTに参加しマニュアルに沿い実践に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実施し、自然災害時の訓練も行い地元の消防団の協力も得ている。事業所内でも一年間の防災計画に基いた防災研修をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時には特にプライバシー保護に配慮し、失禁があっても、本人が傷つかないような声掛けを行い、自尊心を傷つけないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活を本人のペースで過ごせるように支援している。趣味活動等本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	戸外への散歩や、外の一畳台に座って外を眺めたり本人のペースで生活出来るよう支援している。気軽に隣フロアと行き来できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服や以前から好きだった色の服や気に入ったものが着られるように衣類の整理を一緒にする。またお化粧が出来る様セッティングしたり月2回の施設内での散髪やご家族と行きつけの美容院に行かされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園庭に落ちた栗を拾い、皮むきを行い職員と一緒に食事の準備をしている。又、季節の野菜を裏の畑で作り、収穫し食事を楽しめる様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立を基に調理している。水分が取りにくい方にはレモン水や、お茶ゼリーをつくるなど水分量の確保が出来るよう工夫している。また栄養の取りにくい方には栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。入れ歯の方にはポリデント使用し清潔を保っている。義歯の不具合など早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。排泄の自立が出来るだけ出来るようにしている。汚物処理も出来る方にはして頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝に白湯を飲んで頂いたり、フロア内を散歩したり、個々に合った対応をし便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節には柚子湯等を行い、季節を感じて頂いている。入浴拒否の方には職員間で対応を考えて喜んで入浴出来る様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を把握し、散歩や家事全般を職員と共に夜よく休めるようにしている。眠れないときはフロアで話をきいたり安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で専用のケースを個人別に分け確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の本人の思いを家族に相談し、墓参りやドライブ、外食や帰省等を協力して頂き、外出支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じたハガキをご家族に送ったり、敷地内にあるポストに手紙と一緒に入れに行ったりしている。希望があればご家族に電話する機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が快適に過ごせるよう環境面での配慮をしている。湿度、温度、陽射し等にも気を付けており、。季節の移り変わりも窓の外から感じる事が出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣りフロアで唄を歌ったり、囲碁をしたり自室で過ごされるなど本人のペースを尊重するような関わりを持っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、置物を飾っている。本人の意向を聞きながら安心して過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のそれぞれの場所には分かり易く表示をし、移動が安全に自立できるようにしている。		